

こんな思いこみは していませんか？

次のような「思いこみ」をしていませんか？

環境汚染の対策が
決まるまで情報は
公開すべきでない。

情報を出すと世間
が混乱する。

リスクについて情
報公開すれば、住
民はパニックにな
る。

正確で迅速な情報提供と情報提供への真摯な姿勢が重要です。情報をごまかしたり、情報隠しをしていると思われると、地域住民の信頼を失うことになりかねません。

過去の事例を見ても、情報を公開してパニックが発生したことはほとんどありません。

住民は、科学的な
情報は理解できな
い。

住民は、ゼロリスク
を求める。

分かりやすい言葉で説明された情報は理解されます。住民が何を知りたがっているのかを理解しながらきちんと伝えようとする姿勢が重要です。

コミュニケーションにわざわざ人や時間を割く必要はない。

コミュニケーションを成功に導くためには不断の取り組みが必要です。経営者がコミュニケーションの重要性を認識して担当者を配置し、十分な組織の整備と担当者の教育を行うよう、積極的に対応することが重要です。

マニュアルを作ったから、問題が起きても対応できる。

マニュアル以上に、リスクに関する「考え方」が担当者に十分に理解されていることが重要です。コミュニケーションは、ケースバイケースの対応が重要となります。

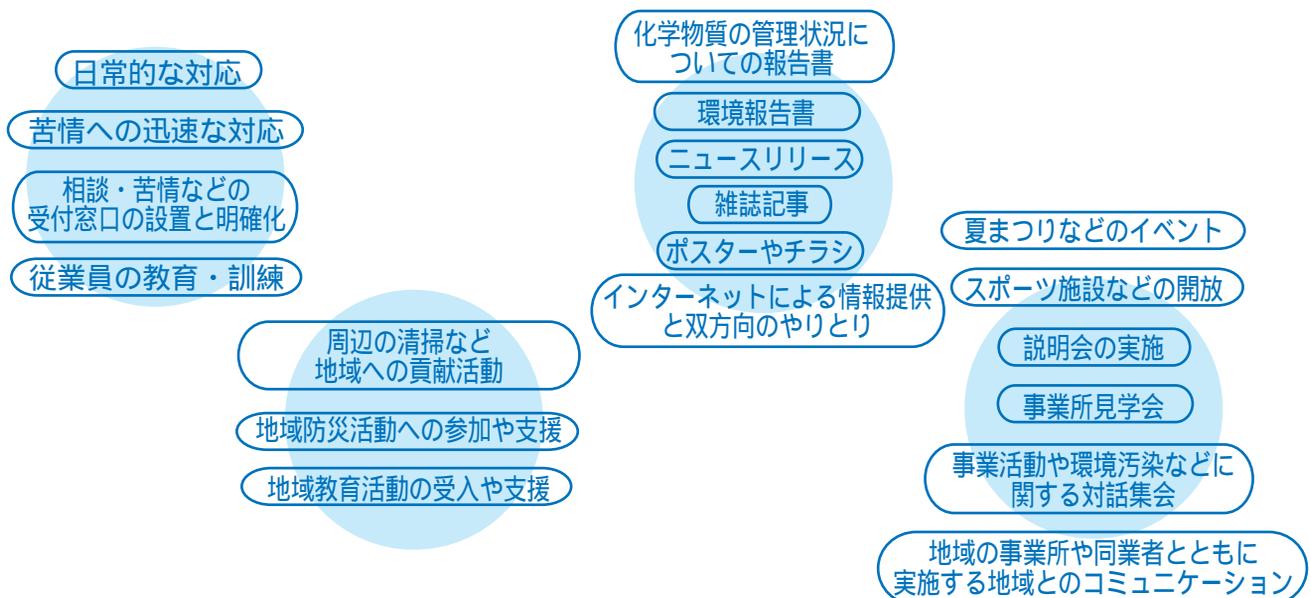
どのような方法をとれば いいのでしょうか？



コミュニケーションの方法には地域の状況や事業者の態様に応じてさまざまなものがあります。「こうしなければならぬ」あるいは「こうすれば必ずうまくいく」という方法があるわけではありませんが、いずれの方法をとるにせよ、地域住民との信頼関係が築きあげられていることが、リスクコミュニケーションを円滑に進める前提となるのは間違いありません。

地域との信頼関係を築くには、事業者がきちんとした体制を整備して「情報公開の機会」と「地域の人の声を聴く機会」をつくり、日常的な取り組みを地道に続けていくことが肝心です。すでに実施されている方法として、例えば以下のようなものがあります。

その中で、リスクに関する情報を発信し、リスクを適正に管理するための取り組みを進めましょう。地域の事業所や近くの実業者とともに一体となって、地域全体のコミュニケーションをすすめる方法もあります。



皆さんとともに、リスクコミュニケーションのあり方を考えていきたいと思っています。

以下のホームページに是非アクセスしてください。

経済産業省リスクコミュニケーションホームページ

http://www.meti.go.jp/policy/chemical_management/index.html

発行

経済産業省製造産業局化学物質管理課

〒100-8901 東京都千代田区霞が関1-3-1

TEL(03)3501-0080 FAX(03)3580-6347 E-mail:qqhbbf@meti.go.jp

http://www.meti.go.jp/policy/chemical_management/index.html